



成人病（生活習慣病）*News Letter*

第46回日本成人病(生活習慣病)学会 開催に向けて

第46回日本成人病（生活習慣病）学会
会長 北川 泰久
(東海大学医学部付属八王子病院)



このたび第46回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会の会長を務めさせて頂くことになり、大変光栄に存じますと共に責任の重さを感じており、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本学会は内科、外科、整形外科、泌尿器科、精神科、小児科などの臨床各科と基礎系医学者が生活習慣病について横断的に討論する場で、かつ看護師、臨床栄養士などの参加があり、広域的な専門家が集合するところが特徴です。会期は平成24年1月14日（土）、15日（日）の2日間で会場は東京の都市センターホテルで開催します。

今回の学術集会のメインテーマを“生活習慣病の予防と治療—QOLの向上を目指した食習慣、運動、薬物療法”としました。特に私の専門である脳領域を主にとりあげ、この中では生活習慣病から脳をいかに守るかについて討論していただきます。その他、生活習慣病に関する多くの臨床および基礎研究の成果について幅広くとりあげ、情報交換を行い、現時点での最前線を示すプログラムを構成する所存です。

今回は理事長が跡見 裕先生から岩本安彦先生に代られての初年度の開催であり、新理事長からその抱負をお話して頂きます。学術プログラムの内容は特別講演、会長講演、教育講演2題、ミーティングエキスパート2題、プレナリーセッション2題、シンポジウム2題、ランチョンセミナー4題、市民公開講座を予定しております。特別講演は生活習慣病と関係の深い頸動脈病変について、長崎大学脳神経外科 永田 泉先生にその診療の最前線について講演して頂きます。シンポジウム1は心房細動の脳梗塞予防と題し、心臓と脳の両方の立場から新しい治療の展開についてご紹介頂き、討論して頂きます。シンポジウム2は生活習慣病と運動療法と題し、食事療法、薬物療法とともに重要な運動療法の意義について第一線の専門家から発表して頂

ます。さらに特別企画として東日本大震災における生活習慣病の実態と対策

についての報告も企画しております。市民公開講座では近年急速に増加している認知症をとりあげ、生活習慣から予防する認知症というテーマで認知症の理解を深めて頂きたいと考えています。この学会を通じて医療関係者の情報交換から社会への啓発および情報発信を行うことで、生活習慣病学会としての使命を果たしたいと考えております。

学会の開催に当たりましては、皆様方のご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げますと共に第46回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会へのご参加を心よりお待ちしております。

今号の主な内容

- ◇ 第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催に向けて
- ◇ 第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催のお知らせ
- ◇ 市民公開講座のお知らせ
- ◇ 寄稿文
- ◇ コラム
- ◇ 理事会報告・主な関連学会のおしらせ
- ◇ 第2回教育集会開催のご案内
- ◇ 入会のおすすめ、その他
- ◇ 編集後記

第46回日本成人病（生活習慣病）学会開催のお知らせ

第46回日本成人病（生活習慣病）学会の現時点での企画プログラムをご紹介します。

会 期：2012（平成24）年1月14日（土）、15日（日）
場 所：都市センターホテル
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-1
TEL：03-3265-8211
URL：http://www.toshicenter.co.jp
会 長：北川 泰久（東海大学医学部付属八王子病院 院長）
会場費：医師・研究者および医薬・器械業者の方 8,000円
 コメディカル 4,000円

プログラム概要（敬称略）

特 別 講 演	「頸動脈病変診療の最前線」	永田 泉（長崎大学）
理 事 長 講 演	「新理事長としての抱負」	岩本 安彦（東京女子医科大学）
会 長 講 演	「生活習慣病から脳を守る」	北川 泰久（東海大学八王子病院）

Meet the Expert	「睡眠と生活習慣病」	苅尾 七臣（自治医科大学）
	「高齢者に対する大腸癌外科治療」	杉原 健一（東京医科歯科大学）

プレナリーレクチャー	「心不全に対する再生療法」	福田 恵一（慶應義塾大学）
	「肝臓癌に対する先進治療」	若林 剛（岩手医科大学）

教 育 講 演	「放射線被曝と健康障害」	浦島 充佳（東京慈恵会医科大学）
	「癌と食生活」	津金昌一郎（国立がんセンター）

シンポジウム 1	「心房細動の脳梗塞予防ー心と脳からの新たな展開ー」
シンポジウム 2	「生活習慣病と運動療法」

特 別 企 画	「東日本大震災における生活習慣病の実態と対策」	寺山 靖夫（岩手医科大学）
---------	-------------------------	---------------

ランチョンセミナー (4題予定)

一 般 演 題

※「日本医師会認定産業医講習更新研修（シンポジウム2）」の認定申請を予定しております。

インターネットによるホームページからのオンライン演題登録を行っております。
詳細はホームページ <http://www.j-seijinbyou.gr.jp/46guidtop.html> 「演題募集要項」をご参照下さい。

演題募集締切：2010年9月28日（水）正午

市民公開講座 開催のご案内

生活習慣から予防する認知症

日 時：平成 24 年 1 月 15 日（日） 14：00～16：00
 会 場：都市センターホテル 3階 [コスモスホール]
 東京都千代田区平河町 2-4-1

「家人や知人が認知症になったら」

新井 誠（筑波大学大学院ビジネス科学研究科）

「認知症の診断と最新の治療」

浦上 克哉（鳥取大学保健学科 生体制御学）

◎ 申込み方法：決定次第本学会ホームページ等でご連絡致します。

この講座は一般市民向け講座です。



「遺伝性血管性浮腫を知っていますか？」

順天堂大学 腎臓内科
大澤 勲

この質問を「クインケの浮腫を知っていますか？」に書き換えるとご存知である方も多いと思います。遺伝性血管性浮腫（hereditary angioedema; HAE）は、遺伝的背景によりブラジキニンが発作的・局所的に産生され浮腫を生じる疾患で、およそ 5 万人に 1 人の有病率とされています。浮腫は皮膚や粘膜のあらゆるところに発生しますが、前述の“クインケの浮腫”は口唇を中心とした浮腫で、皮膚科領域でよく知られています。精神的・肉体的ストレスも発作の誘因となりますが、時に起こる喉頭浮腫は窒息の原因となり、腸管浮腫は腸閉塞などを来し急性腹症を呈します。したがって、HAE の患者さんは、救命救急科、耳鼻咽喉科、呼吸器内科、消化器内科、消化器外科、歯科を始め、様々な診療科を受診する可能性があります。

現在、HAE は 3 型に分類されています。まず、補体系のみならずキニン・カリクレイン系、線溶凝固系の抑制因子である C1-inhibitor (C1-INH) の遺伝子に異常があり、C1-INH の産生が低下した I 型、C1-INH は産生されていますが、活性中心付近をコードする遺伝子の異常のため機能が低下している II 型、そして最近提唱された C1-INH には異常を認めず、患者はおもに女性で、妊娠中やエストロゲン投与時に浮腫が出現する III 型です。I 型と II 型の頻度は 85 : 15 ですが、両者とも 75% の症例が常染色体優性遺伝で、25% が孤発例とされています。症状はいずれも共通で、浮腫が発生する頻度が高い場所は、皮膚、

消化管、口唇や口腔を含めた気道です。但し、浮腫は数十分から数日で自然軽快することも多く、患者さんが浮腫の発作で外来を受診する際は、過去の経験と比べて重症であると感じているはずで、I 型と II 型には、急性発作時に乾燥濃縮ヒト C1-インアクチベーター（ベリナート®P）が投与可能で、呼吸困難や著しい腹痛を訴えている場合にも劇的な効果が得られます。

しかし、本邦の医師における疾患認知度は低く、アレルギー疾患や喘息などと診断されたり、不要の腹部手術を受ける症例が後をたちません。本邦では臨床現場における HAE の診断・治療の重要性に鑑み、2009 年に補体研究会が、「遺伝性血管性浮腫（HAE）ガイドライン」を発表し、診療のよりどころとしました。また、患者さんや医師向けに、本疾患の啓発を志す医師を中心に立ち上げた HAE 情報センター（<http://www.hae-info.jp/>）と製薬会社の運営するホームページ「All About HAE（日本語版）」（<http://www.allabouthae-jp.com/default.aspx>）では、疾患の紹介や Q&A の掲示のほか、診断可能な施設や治療薬 C1-インアクチベーターを常備している施設も紹介しています。HAE の診断は、決して難しくありません。まず医師に HAE の症状や家族歴の特徴を知っていただき、疑うことが重要です。私たちは地道な啓発活動を続け、一人でも多くの患者さんを救いたいと考えています。

寄稿文

心不全の増加と生活習慣病

福島県立医科大学医学部

循環器・血液内科学講座 主任教授

竹石 恭知

慢性心不全の症例が増加している。心不全は高齢者で罹患率が高く、未曾有の高齢化社会を迎えつつあるわが国では、今後さらに増加すると考えられている。今回の震災後、筆者が勤務する福島県では、被災者の方の中にストレス、生活環境の変化、塩分の多い食事、血圧コントロール不良などが原因で心不全を発症する症例が著明に増加している。毎年行っている発症登録調査の結果をみないと確定的なことは述べられないが、急性心筋梗塞症や啓発活動の効果があつたのか肺塞栓症はあまり増加していない印象である。

近年、新しい治療薬が次々と開発され、多くの大規模臨床試験のエビデンスを踏まえて、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、β遮断薬をはじめとする慢性心不全の標準的薬物療法がガイドラインで明示された。また、両心室ペーシングによる心臓再同期療法（CRT）、非侵襲的陽圧換気療法、心臓リハビリテーションといった非薬物療法も普及してきた。昨年末、植込み型補助人工心臓が厚生労働省から製造販売承認を得た。従来の体外式と比較し、植込み型を用いれば在宅で心臓移植の機会を待つ

ことが可能になる。しかし、心不全は未だ予後の悪い疾患であり、新しい治療法の開発が希求されている。

心不全を発症すると、治療により軽快しても増悪による入院を繰り返すことが多いため、再増悪をさせない治療が大切である。B型ナトリウム利尿ペプチドをはじめとするバイオマーカが診療の指標として利用されている。また、除細動機能付CRT（CRTD）デバイスを用いた在宅モニタリングを活用し、胸部内インピーダンスをはじめとする様々な生体情報を遠隔モニターし、再入院を回避する試みが行われている。一方、現在では息切れや呼吸困難といった症状が出現してから治療が開始されることがほとんどであるが、無症状であっても将来の心不全発症リスクが高い症例に早期から介入することの重要性が認識されている。高血圧症、心肥大、肥満、メタボリック症候群など生活習慣を是正し、早期からRAA系抑制薬やβ遮断薬を投与することが心不全発症予防に推奨される。心不全の一次予防、二次予防ともにその基盤にある生活習慣病の加療が必須である。

高齢者の感染後腎炎

特定非営利活動法人 北海道腎病理センター

小川 弥生

感染後腎炎としては小児における溶連菌感染症後の糸球体腎炎（PSAGN）がよく知られている。通常先行する溶連菌の上気道感染の2-3週間後に急性腎炎症候群で発症する。PSAGNにおける組織所見は特徴的で、典型例では管内性細胞増殖性腎炎の光顕像を主体とし、免疫蛍光抗体法ではstarry-skyパターンなどの特徴的なC3の陽性所見がみられる。

当NPO法人では2年ほど前から腎疾患、腎病理に興味をもつ道内の医師が、定期的に文献や標本を持ち寄って勉強会を開いている。先日、勉強会のテーマとして選んだ感染後腎炎について興味深い文献があつたので、引用して紹介したい。Nasr SH, D'Agati VDらは65歳以上の高齢者における感染後腎炎109例の感染巣、原因菌、予後について報告している（J Am Soc Nephrol 22: 187-195, 2011）。小児例と異なり、高齢者における感染後腎炎は、原因菌としてブドウ球菌が最も多く（46%）、感染部位は、咽頭以外に従来から指摘されている敗血症や弁膜症よりも、皮膚が最も多く（28%）みられる。腎予後は、小児例の多くが完全寛解する一方で、高齢者では末期腎不全に移行す

る例が33%である。また、尿異常ではじめて感染症の合併・先行に気づくことが多く、感染症から腎炎までの発症の日数を特定できないことも高齢者の特徴である。高齢化社会の今日、糖尿病や悪性腫瘍などの易感染状態が背景にある高齢者の日常診療において、これらの感染症に腎炎合併の可能性を考慮することも重要と考えられる。治療としては抗生剤治療が主体で、報告によっては難治例や組織学的活動性の高い場合は副腎皮質ステロイド治療も考慮しており、状態が許せば腎生検を行い、病勢を把握することも重要と考えられる。

当腎病理診断部門では、腎病理診断を2009年4月1日から開始し、1000例を数えるが、この中で、感染症関連の腎炎は9例で、その内65歳以上は3例であつた。寛解率が高く生検適応が限られてくる小児若年者の感染後腎炎と異なり、治療に難渋する可能性のある高齢者の感染後腎炎の腎生検は高齢者医療のなかで増加する可能性が考えられる。腎病理診断に従事する病理医として、質の高い、かつ治療に役立つ病理診断を心がけたい。

理事会報告

平成23年第2回理事会を平成23年7月1日に開催いたしました。

- ◎ 第46回北川泰久会長より学会準備状況について概況報告があった。
 - ◇ メインテーマ：「生活習慣病の予防と治療-QOLの向上を目指した食習慣、運動、薬物療法」
 - ◇ 会期：平成24年1月14日（土）・15日（日）
 - ◇ プログラム（概要）の説明・市民公開講座の説明
- ◎ 監事2名が次期学会終了後に任期満了になるため、候補を次期理事会で推薦し、決定したい旨、理事長より提案がなされた。
- ◎ 監事の任期満了に伴い理事2名の候補を次期理事会で推薦し決定したい旨、理事長より提案がなされた。
- ◎ 幹事1名の候補を次期理事会で推薦し、決定したい旨、理事長より提案がなされた。
- ◎ 理事長より次期副会長候補として杉原健一（東京医科歯科大学 腫瘍外科学）先生を推薦したい旨提案がなされた。
- ◎ 委員会報告
 - ◇ 企画委員会
 - 生活習慣病患者における運動療法の有効性に関する研究の実施状況について報告
 - ◇ 認定管理指導医資格制度委員会
 - 第2回教育集会開催について報告
（開催月日：9月3日（土） 会場：千代田放送会館）
 - 認定管理指導医の応募状況と認定審査について報告
 - ◇ ホームページ委員会
 - 第46回学会の開催案内・演題募集等を近日中にUPする
 - ニュースレターVol.10-No.1をホームページに掲載した
- ◎ その他
 - 各委員会における委員の拡充を図るよう提案がなされた。

主な関連学会のお知らせ（2011年9月～12月）

- 第47回日本胆道学会学術集会：9月16日～17日
会 長：千々岩一男（宮崎大学医学部腫瘍機能制御外科）
会 場：ワールドコンベンションセンターサミットホール
連絡先：宮崎大学医学部腫瘍機能制御外科 TEL:0985-85-2808
 - 第59回日本大腸検査学会総会：9月17日～18日
会 長：田尻 久雄（東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科）
会 場：東京慈恵会医科大学1号館講堂
連絡先：東京慈恵会医科大学消化器・肝臓内科 TEL:03-3433-1111
 - 第59回日本心臓病学会学術集会：9月23日～25日
会 長：吉田 清（川崎医科大学循環器内科）
会 場：神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル
連絡先：川崎医科大学循環器内科 TEL:086-462-1111
 - 第32回日本肥満学会：9月23日～24日
会 長：矢田 俊彦（自治医科大学生理学講座）
会 場：淡路夢舞台国際会議場
連絡先：自治医科大学生理学講座 TEL:0285-44-2111
 - 第70回日本癌学会学術総会：10月3日～5日
会 長：田島 和雄（愛知県がんセンター研究所）
会 場：名古屋国際会議場
連絡先：愛知県がんセンター疫学予防部 TEL:052-762-6111
 - 第26回日本糖尿病合併症学会：10月14日～15日
会 長：川上 正舒（自治医科大学附属さいたま医療センター）
会 場：大宮ソニックシティ
連絡先：自治医科大学附属さいたま医療センター TEL:048-647-2111
 - 第19回日本消化器関連学会週間（JDDW 2011）10月20日～23日
会 場：福岡国際センター・他
連絡先：JDDW 事務局 TEL:03-3573-1254
- * 第15回日本肝臓学会大会
大会長：高後 裕（旭川医科大学）
 - * 第49回日本消化器がん検診学会大会
大会長：乾 和郎（藤田保健衛生大学坂文種報徳病院）
 - * 第9回日本消化器外科学会大会
大会長：白水 和雄（久留米大学）
 - * 第82回日本消化器内視鏡学会総会
会 長：松井 敏幸（福岡大学筑紫病院）

上記各学会の連絡先：JDDW 事務局 TEL:03-3573-1254

 - * 第53回日本消化器病学会大会
会 長：井廻 道夫（昭和大学）
連絡先：昭和大学第二内科 TEL:03-3784-8000
 - * 第42回日本消化吸収学会総会
大会長：杉本 元信（東邦大学医療センター大森病院）
連絡先：東邦大学医療センター大森病院総合診療・急病科
TEL:03-3762-415

日本成人病（生活習慣病）学会 第2回教育集会開催のご案内

今日、成人病・生活習慣病の重要性が改めて認識されています。本学会では教育、啓発活動の一環として昨年度より教育集会を開催しております。今般は第2回ということで「高血圧症と各種臓器合併症の病態」と題し、高血圧症に伴うさまざまな障害について講義していただきます。教育集会受講は学会認定管理指導医取得の申請要件となりますので、ぜひご参加くださるようお願いしております。

1. 日 時：平成23年（2011年）9月3日（土） 15:00～19:00
2. 会 場：千代田放送会館
〒102-0093 東京都千代田紀尾井町1-1 TEL:03-3238-7401
3. 定 員：150名
4. 受 講 料：日本成人病（生活習慣病）学会 会員 3,000円 非会員 5,000円 コメディカル／研修医 1,000円
受講料は申し込みと同時に下記へお振込みください。 (会員・非会員共)
お振込み確認後登録完了通知を送付いたします。
みずほ銀行 銀座中央支店 (普) 1221851
口座名：第2回日本成人病生活習慣病学会教育集会
(ダイ2カイニホンセイジンビョウセイカツシュウカンビョウガツカイキョウイクシュウカイ)
5. 募集要項：官製ハガキ、またはE-mailにて申込み事項を記載し、日本成人病(生活習慣病)学会事務局までお申し込みください。
6. 申込締切：定員になり次第、先着順で締め切ります。
7. 受 講 証：受講修了者には日本成人病(生活習慣病)学会より受講証を発行いたします。
8. プログラム：「高血圧症と各種臓器合併症の病態」
司 会： 淡田 修久 (大阪府立成人病センター副院長)
堀越 哲 (順天堂大医学部医学部腎臓内科先任准教授)
1. 概念・疫学 石光 俊彦 (獨協医科大学循環器内科教授)
2. 合併症の基礎と臨床
1) 腎障害 木村健二郎 (聖マリアンナ医科大学腎臓・高血圧内科教授)
2) 網膜血管障害 湯澤美都子 (日本大学医学部眼科教授)
3) 脳血管障害 岩本 俊彦 (東京医科大学老年病学主任教授)
4) 心・循環器障害 梅村 敏 (横浜市立大学大学院医学研究科病態制御内科学教授)
9. 申込み記載事項：E-mail の場合件名は“教育集会応募”
第2回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会申込み
*氏名 (ふりがな)
*会員番号・非会員
*勤務先・所属
*勤務先住所 (郵便番号) 電話番号 FAX 番号 E-mail
10. 応募先／受講に関するお問い合わせ先：
〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3 (株)文栄社 内
E-mail: jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
TEL: 03-3814-8541 FAX: 03-3816-0415
日本成人病(生活習慣病)学会事務局
第2回教育集会 係

第2回日本成人病(生活習慣病)学会教育集会
担 当：熊谷 一秀
(昭和大学附属豊洲病院外科 教授)



事務局からのお願い

勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、
必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。
(電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意ください。)

入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が数多く参加し、それぞれの場で活躍しています。新たに認定管理指導医資格制度や企画委員会による介入試験などの活動が開始されました。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。

また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

※ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。(会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。)

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意ください。

一般会員年会費：3,000円／評議員年会費：6,000円

入会金：なし

◆年会費値上げのお願い

次年度(平成24年度)より年会費を下記の通り変更致します。
ご了承、ご協力の程、宜しくお願い致します。

一般会員年会費：5,000円／評議員年会費：8,000円

お問い合わせ・資料のご請求

日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3
(編集部) 株式会社 文栄社 内
TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415
E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp
URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

直前の5月号でも触れましたが、3月11日に発生した東日本大震災では東北地方の太平洋沖の広い範囲を震源とするマグニチュード9.0という未曾有の巨大地震と大津波が発生しました。

現在、発生から5カ月が経過しましたが、死者15,689名のみならず、行方不明者も依然として4,744名を数えています。(朝日新聞調べ) 再度ではありますが、東日本大震災の犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆様に心からお見舞申し上げます。

更に内閣府が7月28日時点でまとめたところによると、現在も約87,063名の方が全国各地47都道府県で避難生活を送っているという現状が突きつけられています。この中には猛暑にもかかわらず、未だに公民館や学校などに12,905名の方が身を寄せておられ、また19,918名の方は慣れない旅館やホテルで暮らしておられるとのことであります。

この様な中で、日本成人病学会として何が出来ののかを考え、会長の北川泰久先生のご発案で今回の第46回日本成人病（生活習慣病）学会学術集会では、特別企画として「東日本大震災における生活習慣病の実態と対策」が企画されます。今後も引き続き発生する可能性がある東海沖、南海沖大地震等における、大震災における生活習慣病の対策を会員の方々一人ひとりが考えていく上で、非常に示唆に富む企画であると考え、会員の皆様方の是非とも参加を切に希望いたします。

さて、年号が昭和から平成へと移り既に23年が経過し、西暦では1900年台から2000年台へと移り既に11年が経過し、時の移ろいの早さを本当に実感されておられる方々も多いものと拝察いたします。この間、社会は良い方向に進んでいるとは考えられず、益々混乱の度合いを増しています。また人々の暮らしは一向に改善されず、更に逼迫の度合いを強めているといっても過言ではないかもしれません。この様な時代のしわ寄せは、まずは高齢者や病める人等、必ず弱者に降りかかります。またここに来て基軸通貨であるドルの下落につれて、世界同時株安の懸念も取りざたされ、世界情勢が大きな流動的なうねりとして感じられますが、この様な不安定な時代にあつてこそ、我々医療人は病める人への誠心を込めて、優しく慈しむ心を持って、しっかりとした眼差しで病を抱える人々と向き合っていきたいものです。

(青沼 和隆)

成人病（生活習慣病）ニュースレター
Vol.10-No2 2011年8月1日発行

発行人：岩本 安彦
委員会顧問：増田 善昭・山口 巖
責任編集委員：青沼 和隆（筑波大学）
編集委員：馬原 孝彦（東京医科大学）
大澤 勲（順天堂大学）
河野 了（筑波大学）
北川 泰久（東海大学八王子病院）
北山 丈二（東京大学）
佐藤 麻子（東京女子医科大学）
徳岡健太郎（東海大学八王子病院）
中川 敬一（東京シーサイドクリニック）
横山 登（昭和大学豊洲病院）

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局
(株) 文栄社 までお問合せください。